

## 一 等雨法雨の事

仰せに云はく、此の時は妙法実相の法雨は十界三千、下は地獄、上は非想非非想まで、横に十方、<sup>たて</sup> 豎に三世に<sup>わた</sup> 亘って妙法の功德とふるを等とは云ふなり。さて<sup>ふ</sup> 雨るとは、一切衆生の色心妙法蓮華經と三世常住にふるなり云云。一義に云はく、此の妙法の雨は<sup>くしき</sup> 九識本法の法体なり。然るに一仏現前して説き出だす所の妙法なれば、法の雨をふらすと云ふなり。其の故にふらすと云ふは上より下へふるを云ふなり。仍って<sup>じゅう か こういん</sup> 従果向因の義なり。仏に約すれば、第十の仏果より九界へふらす法体にては、ふる処も、ふらす処も真如の一理なり。識分にては八識へ<sup>くだ</sup> 降り下りたるなり。然れば今日蓮等の<sup>たぐい</sup> 類南無妙法蓮華經を、日本国の一切衆生の頂上にふらすを法の雨をふらすと云ふなり云云。